



日々のカイゼンがオフィスを活かす ～イキイキオフィスは運営維持から～

オフィスは「畑の土」

社員がイキイキと働ける快適なオフィス環境はどのようにすれば実現できるのでしょうか。

オフィス設備の多くは年数を経過するに従い劣化していきませんが、オフィスの快適さは必ずしも経過年数に比例しません。社員が働きやすい環境を運営維持することで、保つことは可能なのです。

運営維持ができていないと、『隅に荷物が放置されている』『ホワイトボードが汚れたまま』『晴れた日が続いているのに傘立てに傘が溢れている』などの不具合が徐々に蓄積し、オフィス環境の悪化を招きます。

コクヨでは、オフィスは「畑の土」と捉えています。

畑の土が悪いと、どんなに良い種を蒔いてもうまく育つことはありません。オフィスも同じで、働く環境が悪ければ、社員のパフォーマンスが上がらず満足いく成果を得ることはできません。オフィス環境は畑の土と同じように「日々耕すこと＝運営維持をすること」で、社員がイキイキと働ける環境となり、求める成果を得ることができるのです。

「オフィスカイゼン委員会」で快適な状態を維持

「オフィスカイゼン委員会」のスタートは、2012年、当時のコクヨ霞が関オフィスのリニューアルがきっかけでした。リニューアルから数ヶ月が経過すると、私たちオフィスづくりのプロが構築したオフィスであっても、いくつかの不具合が表面化してきたのです。

そこでオフィス環境を快適な状態に維持する取り組みとして「オフィスカイゼン委員会」を発足しました。

オフィスの管理は総務担当者やファシリティ管理者が一人で悩むケースが一般的ですが、「オフィスカイゼン委員会」という社員参加型の組織にすることで、社員自身が働きやすい環境について考える機会を持ち、より実態に沿った環境を維持すると共に、帰属意識を高める効果も期待できます。

継続に必要な「共通の目的」と「HOP・STEP・JUMP」

まず何のために取り組んでいるのかを明確化させるために『気持ちよく働けて、誇れるオフィスにする』という「共通の目的」を掲げました。なぜなら、何のために取り組んでいるのかが曖昧だと、活動が長続きせず、いつの間にか休眠状態に陥ってしまうからです。

その「共通の目的」を遂行しやすくするために「HOP・STEP・JUMP」というステップを取り入れています。(図1)

まずは、初めてオフィスを使用することになる社員でも迷わず働けるようになる「HOP」。次に整理・整頓・清掃の3Sで不便をなくす「STEP」、そして、清潔・羨の視点を持ってより働きやすくするための工夫をコツコツ続ける「JUMP」。「オフィスカイゼン委員会」のメンバーはこの3ステップの視点を持ち、カイゼンが必要な箇所について意見を出し合っています。

また社員が参加しやすい工夫として、日常の業務に支障がでないよう、活動は隔月に1回1時間とし、宿題はなく、活動日に意見だけを出してもらうよう

(図1) 共通の目的:気持ちよく働けて、誇れるオフィスにする



にしました。実際のカイゼン策を実施するのは事務局メンバー(総務やファシリティ管理者)としています。他にも音楽を流しお菓子を食べながら和気あいあいとした雰囲気の中で意見を出し合うといった工夫もしています。オフィスカイゼン活動は、小さいけれど、確かな一歩になります。日頃感じる小さな不満や不便を見逃さずに拾い上げてカイゼン策を実施することで快適なオフィスを維持し、社員がイキイキと働ける環境になるのです。

オフィスカイゼン事例



傘立てに傘が溢れていることはありませんか? 見た目も良くありませんし、ぎゅうぎゅうに詰め込むことで傘を痛めてしまう可能性もあります。そこでオフィスカイゼン委員会では晴れた日の朝、

残っている傘に「持ち帰ってください」シールを貼り、一週間後にチェック。シールがそのままになっている傘は放置物とみなし撤去をしています。定期的を実施することで社員の意識にも変化が生まれ、放置物が徐々に減ってきています。

「オフィスカイゼン委員会」Web サイト

コクヨのホームページに「オフィスカイゼン委員会」のサイトがあります。現在100個以上のカイゼンアイデアを公開しています。「新オフィスがすぐ乱雑になってしまう」「オフィスが使いづらい」などオフィスのお悩みを解決するヒントとして、ぜひご利用ください。



オフィスカイゼン 検索

kokuyo.jp/kaizen



コクヨ株式会社
ファニチャー事業本部 提案マーケティング部
シニアデザイナー

一色俊秀

Office Renewal お客様の声

当たり前と思っていた今のオフィス ライブオフィス見学をきっかけに考えが変化

リニューアルに先立ち、コクヨマーケティング福岡ライブオフィスを見学。

コクヨマーケティング福岡ライブオフィス



働き方を変えるためにまず最初にあがった案がフリーアドレス。何から手をつければ良いのかわからない中、ライブオフィスで実際の運用を見ることで、導入後のイメージを膨らませることができた。

イキイキ働く社員の姿が特に印象的で、こういう環境で働きたいと思った。リニューアル後に自社の社員もこんな姿になれたらと考えるように。

J:COM 大分ケーブルテレコム株式会社 様

リニューアルの狙い

- ◎組織改正を機に働く環境を見直し、課題であったコミュニケーションを活性化させたい
- ◎働き方を改革し従業員満足度を向上させたい



執務エリア

様々な部門の社員が隣り合わせに座ることで、コミュニケーションの活性化が期待できる、フリーアドレスを導入。座席パターンを設けることで、気分や仕事内容に応じて席が選べる。



資料を広げて作業するのに適した4名かけテーブル。



カフェをイメージしたカウンター席。

打ち合わせエリア

以前は会議室が別フロアにあったが、執務エリアと同じフロアに打ち合わせエリアを設けることで移動時間のロスを解消。また打ち合わせ内容に応じて選べるよう、バリエーションを持たせた。

セミクローズドなソファ席では、視線や音を気にせず集中した議論が可能。モニターを設置しペーパーレスにも貢献。



- オフィス中央のフリースペースは、
- 気軽な打ち合わせから、個人ワーク
- まで多目的に利用できる。



白と緑を基調としたオフィス空間に、「当社（白）と地域（緑）の共生」をコンセプトに設計。

業務内容をしっかりヒアリングし、工程会議では各部門の代表者にも参加してもらったことで社員も納得して新しい働き方を取り入れることができました。



リニューアルをご担当されたJ:COM 大分ケーブルテレコム株式会社 (左より) 河野様 三代様

ライブオフィス見学により漠然としていた考えが具体化され、『新しい働き方の第一歩』が期待できるオフィスへ

お客様情報

J:COM 大分ケーブルテレコム株式会社

所在地 | 大分県大分市松が丘三丁目1番12号

設立年 | 1989年6月13日

職員数 | 184名(2018年6月30日現在)

事業内容 | 有線テレビジョン放送、電気通信事業